

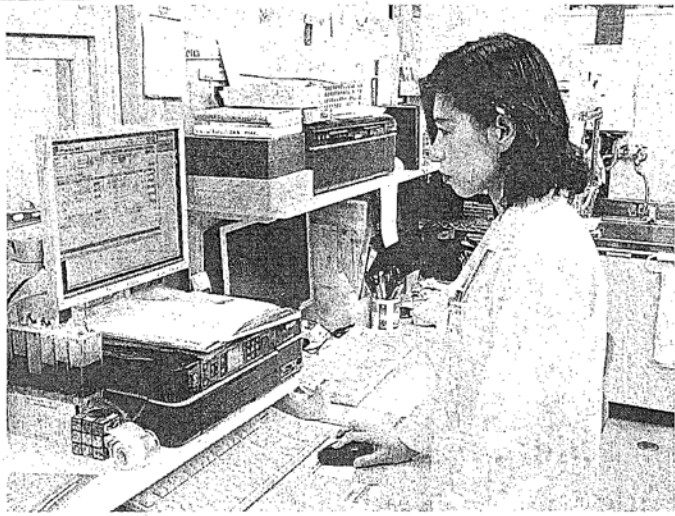
連携 医師⇄薬剤師

広がる遠隔医療 ③

香川の挑戦

昨年11月下旬、香川大 初日、5人の患者に実験
 学医学部付属病院の石田 内容を説明。そのうち、
 俊彦医師(内科)と現香 1人が実験参加に同意し
 川大名誉教授の診察室 た。患者はタッチパネル
 の傍らに、同病院と県内 式の専用端末を操作。承
 の調剤薬局4カ所をデー 諾書に同意するアイコン
 タセンターを介してネッ を押し、表示された県内
 トワークで結び、処方せ の調剤薬局リストから日
 んや検査データをやり取 るる利用している薬局を
 りする「電子処方せんネ 選んでクリックすると、
 ットワークシステム」の 処方せんなどのデータ
 実証実験用の端末が設置 が、すぐにその薬局に伝
 送された。

石田名誉教授は、実験 システムは、徳島文理



実証実験で、パソコンで処方情報などを確認する薬剤師

高松市のツヤマ薬局医大前店で

チーム医療 信頼関係の構築課題

大香川薬学部の飯原なお 病だった「履歴が残り、
 み教授らのグループが、 チーム医療していると感
 香川大や県立保健医療大 じる」などと、一様に評
 と連携して開発。実験は 価した。

期間中、4人の患者が 利用した「さくら調剤薬
 学連携支援事業」の一環 局医大前店」(高松市)
 で、今年3月までの期間 今坂玲子・管理薬剤師
 中に患者21人が利用し は、患者から信頼度が高
 た。 まったのを感じた。

画期的だったのは、紙 に印字される処方せんは 患者とのやり取りなどで
 は盛り込まれない病名や 病名などの情報を得る
 検査データなど、より細 が従来は「薬剤師さん
 かい情報もネットワーク 何も知らないでしょ。医
 で薬局側に伝えられる 師には言っている」と言
 点。薬剤師が把握した副 われることもあった。と
 作用の可能性のある情報 ころが、実験中には「そ
 や、シエネリック医薬品 れぞれの薬を食前、食後
 への切り替えなどの情報 などに飲むのが面倒。い
 を入力し、医師に返信も ない方法はないか」など
 できる。薬の副作用情報 まざまな相談をしてくる
 の集積も可能だ。 患者も現れたという。

新システムでは、従来 の機能に加え、調剤薬局
 の普及などにより、病 事前説明もあり、病名や
 院ではチーム医療が進ん データを見ているという
 ている。その一員の病院 前提で来てくれたので、
 薬剤師は電子カルテや検 信用度が上がり、服薬の
 査情報を見て、服薬指導 相談も増えた。治療に役
 しているが、調剤薬局の 立つ情報を、医師にフィ
 薬剤師は、(患者の)病 ードバックできる」と話
 名さえ知らない」と話す。 す。ただ、「そのために
 実験後、飯原教授が薬 は、薬剤師自身も更に勉
 剤師にアンケートしたと 強することが求められ
 ころ、「これまで患者か る」と付け加えた。

ら聞き出すのに時間がか 一方、課題は処方せん
 かっていた病名や検査値 を書く医師と、受け取る
 を探らずに済む」「これ 薬剤師の信頼関係だ。石
 まで1型糖尿病だと思っ 田名誉教授は、システム
 ていた患者が、2型糖尿

【吉田卓矢】

飯原教授は「新システ ムでは、入力間違いによ
 る調剤間違えなど、薬局 でのヒヤリ、ハット事例
 の約18%を防げる」と話